

【啓発活動】

- お口の健康を守ることが、肺炎や脳血管疾患、心臓病、動脈硬化、認知症などの予防に繋がり、生活習慣病の一つであることをよりアピールするといいい。
- 内科の大きな病気に繋がることをアピールし、年2回は症状がなくても歯科医院へ行くことを伝えると、健診や受診に繋がるのではないか。
- 歯周病が内科的にもすごく怖いものだと分かるような冊子やポスターがあってはどうか。
- 「歯の健康展」のように子どもに関係する機会を作ると、保護者の歯に対する関心も高まる。
- パッと目に付くパンフレットのようなものを保護者に配布すると、保護者の意識も高まる。
- 学校の歯科健康教育を保護者参観に充てると、保護者も一緒に話を聞くことができ、保護者も一緒に受診に繋がる機会になる。
- 年一回でも地域のサロンなどに専門家に来てもらい、勉強する会があるといいい。
- (歯科専門家以外の) 多職種からお口の大切さを伝えてもらおうとスッと入ることがある。

【歯周病検診(口腔健診)について】

- 無料クーポンを使うことが目に見えて分かるようなポスターがあるといいい。
- 予約が取りにくいという声を聞いた。
- 企業に勤めている人は、市の健(検)診調査票を見ない方が多いのではないか。歯周病検診(口腔健診)だけでも申し込めることをアピールするといいい。
- 申し込み時期に広報等でアピールすると申込者が増えるのではないか。

【定期的な歯科健診への体制づくり】

- 予防のために歯科受診や健診を受けるとい意識がまだまだ低い。
- どこでどの主体の歯科健診を受けてもいいが、一回二回受けて終わりではなく、継続的に年一回、出来れば年二回位は歯科医師から診察してもらおうといいい。
- 異常がなくても歯科医師や歯科衛生士から指導やアドバイスをもらい、クリーニングをしてもらうなどの行動が、個人の中に定着してくれれば理想的。
- 定期歯科健診を実施する主体と歯科医院、歯科医師会が連携し、定期的に歯科健診を受けましょうといいう機運づくりや環境づくりが重要。